

令和8年3月10日
諫早市立真津山小学校
校長 田中 美和子

令和7年度学校評価結果のお知らせ

日頃より、本校の教育活動にご理解、ご協力を賜りありがとうございます。

先日、学校評価アンケートをお願いしましたところ、多くの保護者の方からご回答をいただきました。ありがとうございました。

23項目の質問について、全項目において「おおむねできている」の3を超える評価をいただきました。これまでの学校の教育活動に対して肯定的に評価されていると捉えているところです。今後も、それぞれの項目について評価内容を精査し、教職員一丸となってよりよい学校づくりに励んでいく所存です。

学校評価アンケート結果と考察、改善にむけた今後の取組についてお知らせしますのでご確認ください。2ページ目が「保護者アンケートの結果」、3ページ目が「児童アンケートの結果」4ページ目が「学校関係者評価の結果」、それ以降が考察と改善に向けた取組についてとなります。



		令和7年度学校評価結果（保護者）	評価
まなびたい	1	学校は、自分の頭で考える教育活動を推進し、体験活動を取り入れ、子どもを主体者とした授業づくりを工夫している。	3.3
	2	学校は、学習準備、授業態度などの学習規律の定着について継続的な指導を行っている。	3.2
	3	学校は、家庭学習において、実態に応じた学習習慣が身に付くように工夫している。	3.1
つながりたい	1	学校は、あいさつ・言葉遣い、規範意識（ルール）の定着に向けて継続的な指導を行っている。	3.2
	2	学校は、いじめや差別、不登校を生まない学校づくりに取り組んでいる。	3.1
	3	学校は、思いやりと感謝の心を育み、人権意識を育てるための取り組みを進めている。	3.2
やってみたい	1	学校は、子どものやる気を引き出し、前向きに粘り強く取り組むような指導を工夫している。	3.1
	2	学校は、望ましい生活習慣（早寝早起き・メディアコントロール等）の継続的な指導を行っている。	3.3
	3	学校は、健康増進の習慣づくり（運動・歯磨き・手洗い・うがい等）のために継続的な指導を行っている。	3.3
	4	学校は、望ましい食習慣づくりのために、給食指導を中心とした食育に取り組んでいる。	3.3
家庭との連携	1	学校は、懇談会や面談を定期的に行うとともに、連絡帳、電話連絡、家庭訪問などで、家庭との連携に努めている。	3.2
	2	学校は、学年・学級だより、メールなどで、情報発信に努めている。	3.4
教育環境	1	学校は、教室や廊下、掲示板の掲示物の工夫など、学びやすい環境づくりに努力している。	3.3
	2	学校は、清掃・整理整頓・安全点検がなされ、学びやすい環境を保つことに努力している。	3.3
	3	学校は、地域と連携しながら、登下校の安全指導や地域学習の推進に進んで取り組んでいる。	3.5
子どもと家庭の姿	1	子どもたちは、授業・家庭学習に主体的に取り組み「自立した学び」が身に付いてきている。	3
	2	子どもたちは、あいさつや思いやりの言動をとおして「共感できる心」が身に付いてきている。	3.2
	3	子どもたちは、運動・食事・衛生などのよい習慣づくりに努め「主体的な元気」が身に付いてきている。	3.2
	4	子どもたちは、地域の方に進んであいさつをしたり、地域の行事に参加したりしている。	3
	5	子どもたちは、毎日楽しそうに学校へ通っている。	3.3
	6	家庭は、日々の出来事を子どもと話したり、励ましの声掛けを行ったりして、進んでコミュニケーションを取っている。	3.4
	7	家庭は、子どもに様々な体験をさせ、多くの経験を積ませることで、主体性を養い、よりよい成長につなげようとしている。	3.1
	8	家庭は、毎日連絡帳や家庭学習の内容を確認し、学校と連携しながら子どもの教育活動に取り組むことを心がけている。	3.1

		令和7年度学校評価結果（児童）	評価
まなびたい	1	自分の頭で考え、善悪の判断をしたり、よりよい方法を考えて行動したりしている。	3.3
	2	学習の準備をきちんと行い、先生や友達の話をよく聞いて学習に参加している。	3.4
	3	家庭学習や自主学習に進んで取り組み、自分の力を伸ばそうとしている。	3.2
つながりたい	1	あいさつや返事、言葉づかい、はき物並べやろうか歩行に注意して生活している。	3.3
	2	友達のいやがることを言ったりしりせず、みんなと仲よくしている。	3.5
	3	友達と相談したり、自分の力で調べたりしながら、協力して学習している。	3.5
やってみたい	1	わからないことがあっても、先生や友達に聞いたり、自分で調べたりしてねばり強く学習している。	3.3
	2	早寝早起きや手洗いうがい、好き嫌いをしない食事など、健康を意識して生活している。	3.3
	3	自分でやってみたいことを見つけ、できるようになるためにあきらめずに努力している。	3.4
学校生活	1	登校や、授業の始まり、昼休みや休み時間など、時間を守って生活している。	3.4
	2	自分の持ち物の整理整頓やそうじなどに、進んで取り組んでいる。	3.4
	3	係や当番、委員会の仕事に責任をもって取り組んでいる。	3.5
	4	図書室で本を借りたり、家でも読書をしたりして、進んで本を読んでいる。	3.1
	5	登下校中に進んで地域の方に挨拶をしたり、地域の行事に参加したりしている。	3.3
	6	先生は、がんばった時やきついことがあった時には声をかけてくれる。	3.5
	7	先生は、みんなに平等で、同じように接してくれる。	3.6
	8	先生は、良いことはほめてくれるし、悪いことはきちんと叱ってくれる。	3.7
その他	真津山小学校は、楽しくて過ごしやすい学校だと思う。		3.5

令和7年度学校評価結果（学校関係者評価）		評価
1	学校は、学校運営協議会を核としながら、よりよいコミュニティスクールの実現に向けて取り組んでいる。	3.6
2	学校は、通学合宿などの健全育成事業に進んで関わり、地域と連携した教育活動に取り組んでいる。	3.8
3	学校は、PTA活動や地域行事等に進んで関わり、地域と一体感のある学校を目指している。	3.6
4	学校は、清掃・整理整頓がなされ、学びやすく安全な環境づくりに取り組んでいる。	3.1
5	子どもたちは、正しい言葉遣いやあいさつの仕方が身に付いている	2.9
6	子どもたちは、毎日楽しそうに学校へ通っている。	3.2
7	先生方は子どものよりよい成長を目指して、真剣に子どもと向き合い指導している。	3.3
8	真津山小学校は、「地域が応援したい」と思えるような学校である。	3.8

考察1 授業改善や家庭学習に充実を中心とした学びの習慣化

保護者アンケートの評価項目「子どもと家庭の姿」において「子どもたちは、授業・家庭学習に主体的に取り組み自立した学びが身に付いてきている」では、合計106のご家庭から「あまり思わない」「思わない」と評価をいただきました。「自分で何をすべきか考え、進んで学習に向かう子どもの姿」がなかなか見られないということだと思えます。

また、児童アンケートでも「家庭学習や自主学習に進んで取り組み、自分の力を伸ばそうとしている」の項目において、140名の児童が「あまり思わない」「思わない」と回答していることから、自分から意欲的に学ぼうとする態度の育成に課題があると考えています。

子どもたちの学力向上に向けて「主体的に学ぼうとする態度」の育成は、その土台となるものです。自分から学びを進めるためには、毎日の学習を習慣化していく必要があります。

今年度の取組として、4月の学級分会で「学びの習慣化」について動画を視聴していただき、学校の取組についてお知らせしました。その中で家庭学習について以下のようにお伝えしています。

(低学年) 教師が出す課題を中心に、家庭学習の方法や習慣を身に付ける。

(中学年) 教師が出す課題について、自己の課題に応じた内容や分量、時間を決めて取り組む。

(高学年) 自主学習を中心として、自己の課題に応じた内容や分量、時間を自分で計画して取り組む。

年間を通して取り組んできましたが、個人差も大きく、まだまだ身に付いていない子どももいるようです。これまでの取組の検証や、やる気を引き出す授業改善を進めるとともに、ご家庭とも連携しながら「学びの習慣化」を進めてまいります。具体的には、

○子どもが「やろう」と感じる課題の出し方や内容の工夫

○学習内容の定着を柱とした課題の精選

○子どもの実態に応じた配慮

○教師の見取りと励ましの声かけの充実



に取り組んでいきます。ご家庭にはこれまでたくさんのご協力をいただいておりますが、今度も励ましの声掛けをお願いします。

考察2 子どもが安心して過ごせる環境づくり

子どもへ実施したアンケートの記述に「悪口をなくす」「男女仲よく」「みんなが楽しい」など、安心して楽しく過ごせる学校を求める声が多くありました。また、保護者アンケートの記述からも「いじめなどがなく、安心して通える学校」を求める声を多くいただきました。

安心メールで「中指を立てる」ことについてお願いしたことがあるように、子どもたちの中に平気で「死ぬ」「消えろ」などの言葉を使ったり、「中指を立てる」「すぐに叩いたり蹴ったりする」などの行動をしたりする様子が見られます。この言動が相手をどんな気持ちにさせてしまうか、どんな心の傷を負わせてしまうかをまだ理解できていない子どももいるようです。このようなことがあった時には、その都度「なぜそのようなことをしてしまったのか」を聞き、「どうすればよかったか」を一緒に考え、相手の気持ちに立った言動ができるよう指導を継続しているところです。

学校が子どもたちにとって安心して過ごせる場所であることは最も大事なことです。しかしながら、不適切な言動が見られることや、それが低年齢化してきていることに対し危機感をもっています。

学校運営協議会（学校、保護者、地域の代表が集まる会議）では、「YouTube等のメディア」が子どもの暴言や暴力に影響を与えていることが話題になりました。ご家庭で決めた約束を必ず守ってメディアに接することや、適切にフィルタリングを掛けることが、子どもを守ることに繋がります。これはご家庭の協力が必要不可欠です。子どものより良い成長や安心して生活できる環境づくりのためご協力をお願いします。

今後に向けて①

いじめや不適切な言動の早期発見や指導、および子どもの意識を高めていくために、以下のようなことに取り組んでいきます。

○なかよしアンケートの内容やその後の面談の行い方の見直し

→いじめや問題行動の早期発見と子どもに寄り添った対応の充実につなげる。

○真津山っ子のルールの見直しと徹底（生活指導の充実）

→よりよく学校生活を送るための基本を身につけさせる。

○情報発信と指導内容の共通理解をもとにした家庭との連携

→未然に防ぐために声掛け・指導と、起こった場合の情報や指導内容の共有を確実に行うことで、一体となって子どもと向き合う。

○スクールカウンセラーや関係機関と連携した、適切な指導や支援

→職員研修の充実を図り、子どもの心に響く指導を行う。



今後に向けて②

アンケート記述の中で、「学校評価項目をより具体的にしてほしい」「記名・無記名について検討してほしい」というご意見をいただきました。次年度の学校評価では、この件について再度検討したうえで実施いたします。また、「家庭学習（自主学習）の効果と学力との相関」についてもご質問がありましたので、校内研究部で検証を行い、家庭学習の在り方と関連させてお伝えしていきます。